

日本食糧新聞

日本食糧新聞社

東京都中央区八重洲1-9-9
東京建物ビル(〒103-0028)

www.nissyoku.co.jp

編集・広告 ☎03(3432)3103

購読 ☎03(3432)2927

東京都港区西新橋2-21-2
第一南桜ビル(〒105-0003)

[支社局]北海道 ☎011(866)0721/

東北 ☎022(225)2721/新潟・関東

☎03(3432)5700/長野 ☎026(228)

5520/静岡 ☎054(289)5802/中部

☎052(571)7318/関西 ☎06(6314)

4181/中国 ☎082(223)2535/九州

☎092(291)1790

購読料 半年30,882円

(税別・前金)

©日本食糧新聞社2014年

野菜種苗等に関する情報交換会



会場を巻き込み議論白熱したパネルディスカッション

近畿農政局は11月28日、野菜種苗に関する情報交換会「新たなシ

ーズへの挑戦」強みのある野菜品種との出会い」を、大阪合同庁舎第1号館で開催し

た。昨今の生鮮野菜産地は、加工・業務用への

調理師専門学校・辻製菓専門学校尾藤環コミ

でも、地方との連携で地域振興に取り組んで

の懸け橋として、地域振興を担う料理人育成

種苗業界と市場をつなぐ活動を推進する

「青果育種研究会」とし、安定供給できる品

画部副部長が「野菜、その多様なニーズへの

作りへの協力要請は引きも切らず、消費行動

パネルディスカッションでは、尾藤副部長

の共催で、会場には種苗メーカー18社が小間

種導入が課題となっており。そこで、生産

人育成の視点から」を

と土地を結ぶ取組みが大切だ。一方、幼いこ

と農業生産法人博農の役員、清浄野菜普及研

野菜種苗で情報交換会

近畿農政局

青果育種研究会と共催

を形成し、新品種や推奨品種のPRに務め

る、ニーズに合致した品種開発と普及・定着

テーマに講演。青果育種研究会阿比留みどり

共同帰属意識が強く社会奉仕やボランティアに積極的

の野菜に対する市場ニーズ」「野菜の新品種

体、実需者、卸売業、種苗会社、行政関係者

取組みが急務だ。これを踏まえプロ

ーターを務め、パネルディスカッションも行

農業に対する志向が強い。現に大学は空前の

農学部ブーム。当校も一体となり活発に議論

ら約100人が参加し情報収集に励んだ。

側の意見を代弁し、辻

尾藤副部長は「当校

調整技術者と社会貢献

した。

情報収集に励んだ。

側の意見を代弁し、辻

尾藤副部長は「当校

調整技術者と社会貢献

した。

(佐藤路登世)